



**「地域がひとつの病院」を目指して
県央地域5市町村が医療機関の適切な受診等について合同啓発**

3月の開院から半年が経過した済生会新潟県央基幹病院では、救急搬送等の受入対応がひっ迫に近い状況となっています。適切な医療機関の受診及び救急車の利用について、地域住民への啓発のため、県央地域5市町村が合同で、9月9日の「救急の日」に合わせ、9月の各市町村の広報紙に記事を掲載します。

【本件のポイント】

- 済生会新潟県央基幹病院で、救急搬送等の受入対応がひっ迫に近い状況
- 適切な医療機関の受診及び救急車の利用について、地域住民への啓発のため、県央地域5市町村が合同で、9月の各広報紙に記事を掲載

【本件の概要】

1 済生会新潟県央基幹病院の現状

(1) 救急搬送

当初は、年間5,500～6,000件程度、2～3年での段階的な受入れを想定していたが、3～6月の間で既に月平均500件程度、年間6,000件程度の見込みで推移しており、ひっ迫に近い状況

(2) ウォークイン患者（直接来院して救急受診する患者）

1 (1)とは別に月平均250件程度、夜間や土日祝日の受入数が多い傾向

2 趣旨

- (1) 県央地域では、済生会新潟県央基幹病院を核として、地域の医療機関が患者の病状などにより役割分担し、相互に連携しながら「地域がひとつの病院」として機能する医療提供体制を目指している。
- (2) 済生会新潟県央基幹病院は、救急医療及び高度・専門的医療を担うが、病气やけがの程度が軽い患者の救急搬送や受診が多いことが課題
- (3) 適切な医療機関の受診、救急車の利用について、地域住民への啓発のため、県央地域5市町村が合同で、9月の各広報紙に記事を掲載

3 記事の内容

- (1) 済生会新潟県央基幹病院における救急搬送の現状
- (2) 医療機関の適正受診及び救急車の適正利用の呼び掛け